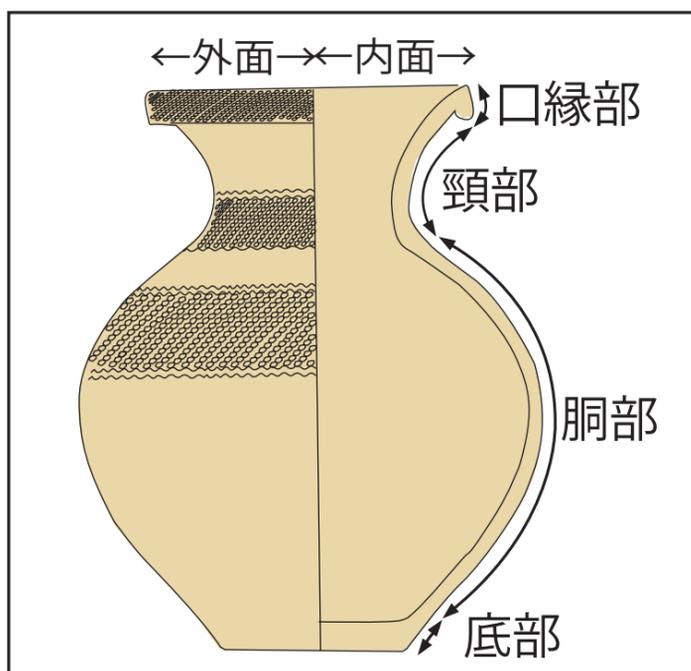


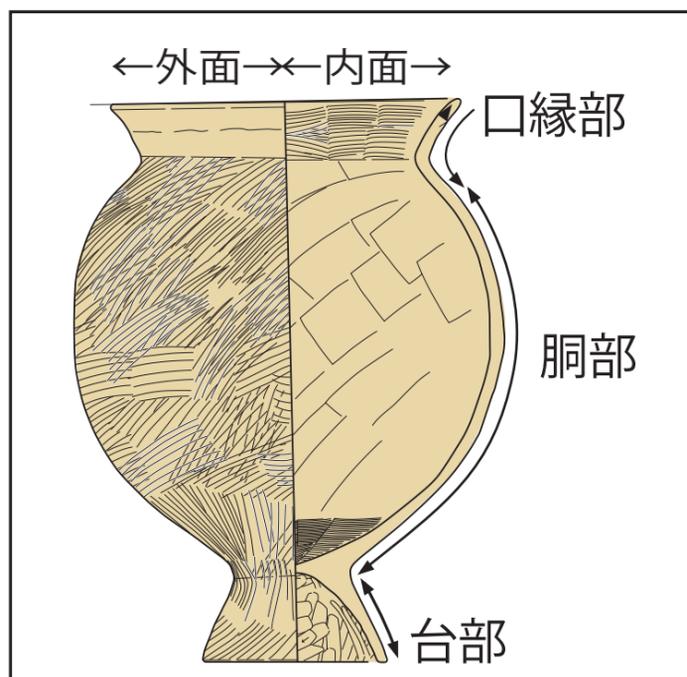
土器ができるまで

土器ができるまでは、①粘土採取、②形成・調整、③施文、④焼成という様々な工程があります。土器の形は、時期や地域で異なっています。その土器の形、内外面に表れる調整の痕跡、文様を観察することによってどこの地域の土器か知ることができます。

土器の各部の名称



壺の各部名称



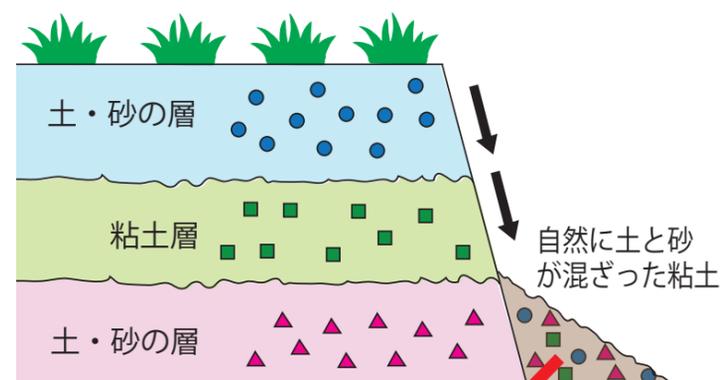
甕の各部名称

土器の製作工程—① 粘土採取—

土器をつくるために、まず最初に行うのが粘土の採取です。崖などの斜面に露出している粘土層が、風雨等により上下の土・砂礫層と混ざって裾部に堆積している現象は現在でも見ることができます。こうした粘土は適度に水分と砂粒を含んでいるため、そのまま土器づくりの粘土として使うことが可能です。一般的に、土づくりは粘土と砂を混ぜるものであるというふうに思われがちですが、こうした再堆積粘土が縄文・弥生土器を製作するための粘土として選択されている可能性が高いと思われます。



再堆積粘土が見られる斜面地



すぐに土器作りに使える粘土

土器の製作工程② 成形・調整①

土器の成形は基本的には紐状にした粘土を輪積みしていきます。土器の接合痕の観察から、粘土紐をただ単にのせていくのではなく、半分近く重ねて積んでいっていることがわかっています。大型の土器を作るには一度に粘土を積み上げることは難しいので下段、中段と休みながら積み上げていきます。



粘土紐の積み上げ

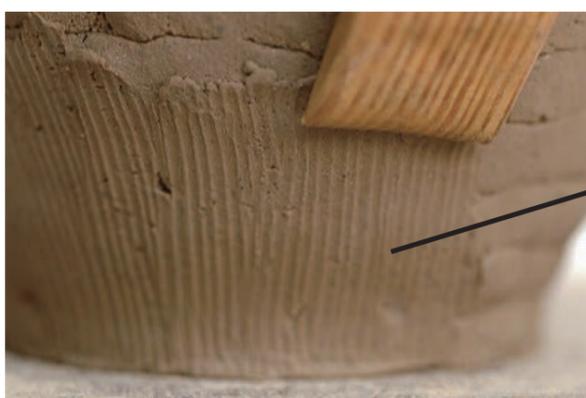


粘土紐の接合状況



下段の粘土紐積み上げ

次に、割板や複数の棒の結束具などの工具で接合痕を消していきます。これを「ハケ」調整といいます。ハケ調整は、接合痕を消すだけでなく、製作中の土器の形を微調整することも可能です。その際板の先端の凹凸が土器の表面に細かい線となって残ります。近畿地方では羽子板状の工具（タタキ板）を用いて土器外面を叩き締める「タタキ」調整が行われる場合があります。甕の外面調整はこれで終了することが多いです。



ハケ調整の様子

細かい線

タタキ板



タタキ調整の様子



下段のハケ調整終了



実際の土器に見られるタタキ調整

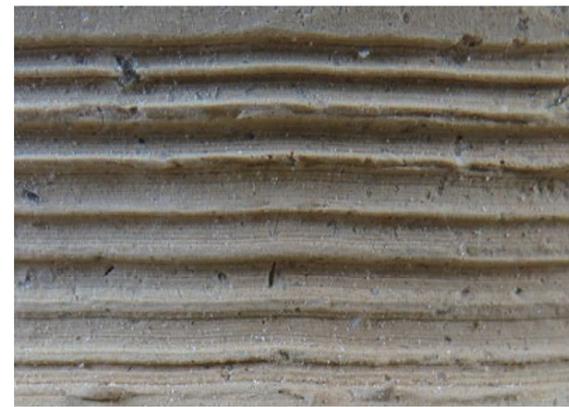
③ 土器の文様と文様のつけ方



板状工具による刺突文



棒状結束具による刺突文



棒状結束具による直線文



棒状結束具による波状文



棒状結束具による扇形文



貝殻の押圧



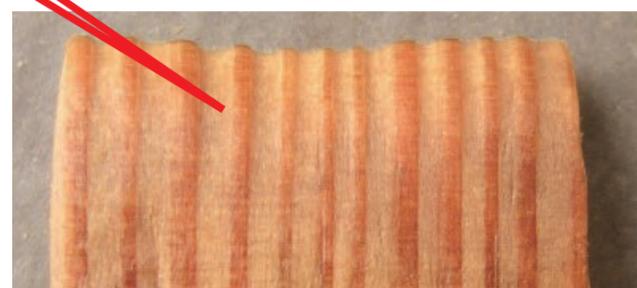
縄文



復元した棒状結束具



復元した板状工具



板状工具の先端

2種類の施文具

板状工具は器面調整にも使います

壺や高坏はハケ調整の後「ナデ」調整、「ミガキ」調整を行うことが多いです。

「ナデ」調整はハケ調整によってできた線を消していく工程ですが、手でなでるのではなく、何らかの板状工具を使用していると考えられます。この工程によって、ほぼ完全に器面を平滑にすることができます。



復元したナデ工具



ナデ調整の実際



下段のナデ調整終了

下段がある程度固くなったら、さらに粘土を積んでいきます。積み方やハケ調整・ナデ調整の方法と手順は同じです。中型の土器なら口縁部まで積めることもありますが、大型の土器の場合は肩部でもう一度休む場合もあります。



肩部の粘土紐積み上げ



肩部のハケ調整



肩部のナデ調整



肩部までの成形完了

中段まである程度固くなったら、さらに粘土を積み、完成させます。積み方やハケ調整・ナデ調整の方法と手順は同じです。「ミガキ」調整は、粘土が生乾きの段階で硬い平滑な石などで表面をこすりつけることにより一層の器面の平滑さ、光沢を出すことができます。口縁部は最終的に動物の皮などで「横ナデ」調整することが多いです。土器の成形・調整の道具は、地域・時期により多様なものを使用していたことがわかっています。



頸部～口縁部の粘土紐積み上げ



頸部～口縁部のハケ調整



頸部～口縁部のナデ調整



口縁部までの成形完了



ミガキ調整



口縁部の横ナデ調整

④ 弥生土器の焼成方法(覆い焼き)



1. 薪の上に土器を密着させて置く



2. 藁をかぶせる



3. 上部を泥で覆い、裾の藁に点火



4. 内部の薪が燃え温度が上昇する



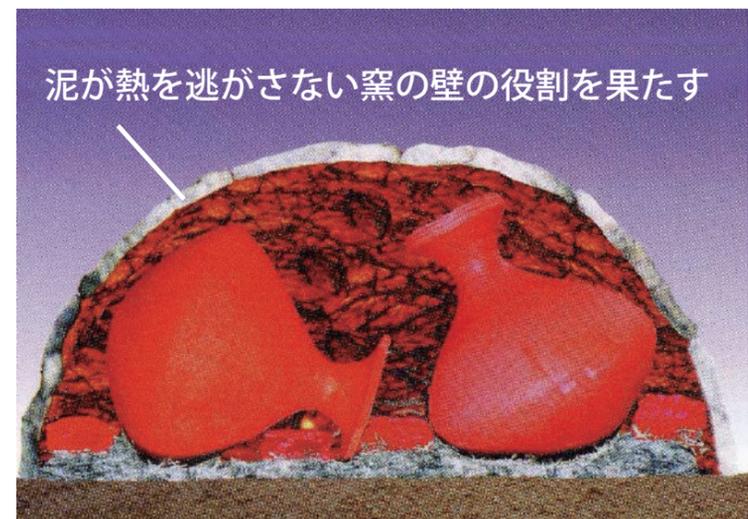
5. 焼成終了



6. 上部の泥を除去した状況



7. 泥との接触面にできた黒斑



内部の燃焼の様子

④ 縄文土器の焼成方法(野焼き)



1. 薪の上に土器を密着させて置く



2. 全体を薪で覆う



3. 枯れ葉をかぶせる



4. 枯れ葉に点火



5. 燃焼中の状態



6. 全部が燼になり温度が上がる

遮るものがないため、熱は四方に拡散する



7. 焼成終了



燃焼の様子